

## すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	東京都新宿区西新宿 7-18-5VORT ビル 1F
施設名	ルーチェ保育園西新宿

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

せかい～ホンモノの音楽にふれる～

#### <テーマの設定理由>

オリンピックイヤーであることから「せかい」をテーマにかかげ、子どもたちが見て、聞いて、感じたことから色々な「せかい」に興味を広げてほしいと思いテーマに設定した。

### 2. 活動スケジュール

- ① 6/25 音楽えんそうかい  
7月 「音遊びを楽しむ」
- ② 8/20 音楽えんそうかい  
9月 「楽器について知る」
- ③ 10/29 音楽えんそうかい  
11月 「作曲家について知る」

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【楽器】 マラカス・タンブリン・カスタネット・ハンドベル

【道具】 ラミネーター・プロジェクター・マグネット・図鑑

【環境】・演奏会を通して様々な楽器や音、曲などに親しみを持てるようにする。

・実際に楽器に触れられるように準備する。遊びや行事に取り入れ、親しみを持てるようにする。

・プロジェクターを使って作曲家や曲について興味関心を深められるようにする。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ① 音遊びを通して様々な音や、リズム、高低、強弱があることを知る。
- ② 様々な楽器に触れて音の違いや鳴らし方を知る。
- ③ 作曲家がどんな人なのか、曲がどんな国や場所で生まれたかを知る。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ① ・フルートのような高い音の時には小さく手拍子し、チェロの低い音の時には大きく手拍子をする子どもの姿があった。
  - ・高い音と低い音のイメージを子どもたちに問いかけると、高い音は「鳥」「ねずみ」、低い音は「ぞう」「恐竜」などの意見があった。
  - ・保育者の手拍子を真似て手拍子をする音遊びでは、「手じゃなくて足を鳴らしたらどんどん音がするよ」「お腹はたぬきみたいな、太鼓みたいな音がしそうだよね。」と子どもたちから声が上がった。その後、足やお腹を鳴らす音遊びへと展開していった。
- ② ・奏者から楽器の名前を聞かれると、「フルート」「ヴィオラ」など積極的に答える姿があった。また、楽器の素材にも興味を持ち、木や銀でできていることを知り、図鑑で調べる様子も見られた。
  - ・マラカス、タンブリン、カスタネットに触れると、「シャカシャカ」「リンリン」「カチカチ」など、聞こえた音のイメージをオノマトペで表現していた。
  - ・初めは楽器をダイナミックに動かして音が出ることを楽しんでいるようだった。保育者が小さく鳴らす、ゆっくり鳴らすことをゲームとして取り入れると強弱、遅速にメリハリをつけて鳴らす面白さを味わっているようだった。
- ③ ・演奏会で聴いた曲の作曲家（ベートーベン、モーツァルト、ショパンなど）の写真を見ると、「ひげが長い」「何歳なんだろう」「外国の人じゃない？」と声が子どもたちから上がった。
  - ・プロジェクターを使って様々な国の風景や建物を見る機会を設ける。「寒そう」「川が綺麗」など感じたことを言葉にしていた。その後、保育室内に飾ってある世界地図を見ながら国を探したり、国旗の特徴にも興味を持ち始める様子があった。

## 5. 振り返り＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ① 音を表現する時、子どもたちは身近な動物や、聴いたことのある（親しみのある）曲からイメージを広げているようで、これまでの体験が表現につながることを感じた。反対に、高い音を「ぞう」とイメージする子どももいるかもしれない。子どもがなぜそう思ったのかを知ることや、豊かな表現を伸ばす保育者の関わりが大切だという意見があった。
- ② 初めは楽器をダイナミックに扱って音が出ることを単純に楽しむ姿があったが、保育者がゲームを取り入れることで、楽器の扱い方、それによって音色が変わる楽しさも感じているようだった。
- ③ 写真や映像などを使い、視覚的に情報を伝えることで、子どもたちの興味が広さるにがったように感じる。「外国のひと」⇒「どんな国？」⇒「国の場所」⇒「国旗」子どもたちが気になったことを進んで調べたり、関心を深められるような工夫（室内の掲示物など）で環境を整えていく必要がある。

